

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792530032		
法人名	医療法人健山会		
事業所名	グループホームすみれ・梨の木 A棟		
所在地	福島県耶麻郡猪苗代町字梨木西44-1		
自己評価作成日	平成29年1月31日	評価結果市町村受理日	平成29年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成29年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で、今までの生活を継続出来るように支援している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1. 管理者は「利用者はお客様」という視点で支援にあたるよう、会議を通じて職場内に徹底している。職員は利用者一人ひとりに寄り添いながら支援や声かけを行っており、入居後利用者の表情が明るくなったという声も多く、家族の信頼を得ている。</p> <p>2. 年間計画に基づいて、内部研修会を毎月実施するほか、介護支援専門員や介護福祉士の資格取得を目指している職員に対しては、実技指導や試験問題の提供など受験対策の支援を行うなど人材育成に努めている。</p> <p>3. 運営推進会議では、行政、地域代表、家族から認知症カフェの広報の仕方、家族会の結成、防犯対策、地域の福祉課題等率直に話し合いが行われ、運営に活かされている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で出し合い、その中から選ばれた理念に基づいて実践している	職員間で地域密着型サービスの意義や役割を考え、話し合い作られた。玄関に掲げ、職員会議で再確認し、共有している。また、毎年、理念の見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々やボランティアの方々に慰問して頂いたりして交流している	町内会に加入し、民話の会や民謡、高校の吹奏楽部等のボランティアを積極的に受け入れ、地域の方の来訪もあり、利用者がこの地区の一員として暮らし続けられるよう働きかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々と交流出来るように場を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	利用状況や内容報告をし、良い改善策などあれば助言頂いている	委員には、利用者、家族、町職員、地域代表、地域包括支援センター職員、民生委員等が委嘱され、事業内容を報告し、改善案を含め事業運営に意見をもらい、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ネットワーク会議などにも積極的に参加し、情報交換をして協力関係を築いている	運営推進会議の委員となっており、事業所の抱える課題等についてアドバイスをもらい、情報交換をしている。町のネットワーク会議や防災連絡協議会等にも参加し、意見や情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で全体会議の後で資料に基づいて話し合ったりして理解を深め実践している	入居時に身体拘束のリスクについて家族に説明し、言葉や態度やいかなる場合でも身体拘束のないケアに全職員で努めている。また、勉強会を実施し、職員間で再認識している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ニュースや記事になった事などは、その都度話し合い、注意し防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体で話し合いの場を設け、理解を深めるよう実践している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族に対し、十分な説明を行い、不安や心配な事を伺い、納得して頂けるよう心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族からの意見要望は、いつでも話し合いの機会を設け改善出来るようにしている	利用者からは日常の関わりの中から意向や要望を汲み取り、家族からは来所の折、話を聴き取り信頼関係を築きながら意見の反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で自由な意見が言える環境を整備している 1年に一回個別面談を実施している	管理者は、日頃より気軽に職員と話の出来る関係を作り、職員間の融和を図っている。また、職員会議や年1回の個別面談で意見や要望を聴き取り運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に代表者と話し合いを行い、状況を報告している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加できる機会を多くするように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流できるネットワークに参加している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事に対して解消出来るよう話し合い、安心して頂けるよう努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの不安や要望等は、遠慮なく相談して頂くよう声掛けしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が、必要としている支援は何か相談し対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添いながら日常生活を送り、本人の思いを共有出来る関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化に気を配り、家族の方と連絡を取り、その時一番良い方法を相談している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中で、本人が大切にしてきた方や、場所は把握し、関係が継続出来るよう支援している	会話などでこれまで培ってきた人間関係や馴染みの場所を把握し、関係を継続できるよう支援している。重度の利用者にも出来る限り散歩などで外に出る機会を設けている。また、家族の協力を得て外出や外泊、墓参り等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格を把握し、安心して過ごせるよう支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	どんな事でも、少しでも不安な事があれば遠慮しないで相談して頂けるよう支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人らしい暮らし方に少しでも近づけるよう意向を把握し、困難な方には必要に応じた支援を行っている	利用者が、今後、どのように生活を続けていきたいかを日常の生活、会話から把握し出来る限り希望、要望に沿えられるよう支援している。意思表示の困難な利用者には家族から情報を得、また、職員間で本人の視点に立って意見を出し合い支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境等の情報を頂き、安心して生活して頂けるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や動作等に目を配り、心身状態の変化に気付くよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から意見を伺い、現状に即した計画を作成している	利用者、家族より意見、要望を聴き取り、また、介護記録や担当者の意見を参考にしモニタリングを行い、問題点や課題を職員間で協議、話し合い、現状に即した介護計画を作成している。介護計画の見直しは、3ヶ月に1度行っているが、利用者に変化が生じた場合には、その都度、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活内容を記録し、申し送りなどで情報共有しながら改善策も考え実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に対して、不安・心配のない支援や利用プランを立てている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望で買い物に行きたい時は、近くの商店へ同行し、安全に楽しむ事が出来るよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族からの希望を大切に、受診の対応が出来るよう支援している	本人、家族の希望を大切にしているが、殆どの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としている。通院は事業所が主体で支援している。また、複数の協力医による往診も定期的に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調の変化に気づき、情報を伝え、相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状態について、病院より診療情報提供書などで情報を頂き対応できる体制にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化に合わせ、その都度話し合いを行い、納得の得られるよう支援に取り組んでいる	入居契約時に本人や家族に、重度化した場合や終末期のあり方について、事業所の対応指針を説明し同意を得ている。主治医と連携を図り随時家族と話し合いながら、思いや意向に沿った支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に事故発生時の対応出来るよう緊急マニュアルを含め、実践できる体制を整えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一回は色々な設定を設け、避難訓練を実施し、スムーズに避難出来るよう取り組み実践している	昼夜の火災を想定した避難訓練を毎月実施しているが、地震や水害等を想定した訓練や、消防署や地域住民の協力を得た訓練を実施していない。シートやコンロ、麺や缶詰等非常用備蓄品は準備されている。	地震や水害等を想定した訓練を計画的に実施して欲しい。また、消防署の指導を受けたり、地域住民の協力を得た訓練も実施して欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切に、失礼のないような声掛けを全職員で注意している	それぞれの利用者に合わせた言葉かけ、誇りを損ねない言葉かけ等に配慮されている。入室時は必ずノックと声掛けをし、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを遠慮なく話せる空気作りをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合った生活パターンを大切に、希望を伺い支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に確かめ、衣類の選択や訪問理美容等の対応を実施している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食べたいものを聞き取り、提供したり食器拭き等に参加して頂いている	利用者の要望やその日の状況に合わせて、旬の物を多く採り入れながら、芋の皮むきから食器拭きまで、出来る範囲内で職員と一緒に、楽しい食事時間となるよう支援している。また、誕生会やクリスマス等季節に応じた食事も、利用者の希望を聞きながら提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の記入を参考に、脱水にならないよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに声掛け促し、本人の力に合った口腔ケアを実施している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、介助の方のパターンを把握し、声掛けなどでトイレでの排泄が出来るよう支援している	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄できるよう、さり気なく声かけするなど誘導支援をしている。パット等排泄用品の使用を減らす工夫もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記入し、状態を確認しながら対応し、手作りヨーグルトを提供する等して予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆったりとした入浴が出来るよう努めている	本人の希望やタイミングを見ながら入浴が楽しめる環境に配慮し支援している。入浴を拒否される方には、時間をずらす等している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、自由な休息、安心して眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	身体状態の変化に合わせ、薬の内容の変更もその都度分かるよう用紙に記入し確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きな事を把握し、その人に合った気分転換が出来るよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って買い物に出掛けたり、外食やドライブ等に外出支援をしている	事業所周辺を散歩したり、菓子店等へ買い物に出かけている。また、ドライブや花見等の名所地にも出かけている。家族の協力を得て、外食したり自宅訪問等もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則としては事務所に預かり、自己管理できる人は所持し、自由に使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば、自由に電話や手紙のやり取りができるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけを行い、入居者様がゆっくり出来るように工夫している	共用空間は広く明るく、季節に応じた飾り付けや、植木、手工芸品等を飾っている。テーブル等備品は、利用者の導線に配慮した配置がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替えをしたり、ソファにてテレビを観たり、居室で休まれたり、一人ひとりの状況に応じて対応して		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	本人や家族の希望を取り入れ好きな物を置き、その人らしい居室になるようにしている	テレビやタンス、家族写真やぬいぐるみ等が持ち込まれているが、居室内は整理整頓され、清掃が行き届き、落ち着いた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に応じ、出来る事はご自分でやれるように、また安全に生活出来るよう支援している		